

令和 7 年 2 月（2 月号）

松江市出雲玉作資料館

資料館だより

松江市出雲玉作資料館発行

〒699-0201 松江市玉湯町玉造 99-3

開館時間 9 時～17 時（入館は 16：30 まで）

休館日；月曜日・休日の翌日 TEL・FAX（0852）62-1040

■ 1 月 19 日（日）26 日の文化財防火デーに合わせ消防訓練を実施

松江市消防本部宍道分署、玉湯方面団員、島根県文化財課職員、松江市文化財課職員、資料館職員で放水訓練と消火設備点検、避難経路を確認しました。



放水訓練



消火器点検



■ 今月の一品 作品名：薩摩焼 「金襴手菊花文」小皿 制作者：陶弘山（薩摩焼窯元）
制作年代： 明治～大正時代



薩摩焼は豊臣秀吉の朝鮮出兵の際、島津義弘が連れ帰った朝鮮人に作らせた陶磁器で、江戸時代には「白薩摩」が薩摩藩の御用品、「黒薩摩」は庶民の日用品として使われていました。廃藩と同時に藩の庇護を失った多くの窯が廃業しましたが、1867 年のパリ万国博覧会で「薩摩錦手」が注目を浴び、1873 年のウイーン万国博覧会ではジャポニズムの影響から、人気商品となりました。明治政府は陶磁器を貿易の重要産物としていましたが、その需要を鹿児島だけで捌くことができず、日本全国の陶産地が参入し「SATSUMA」として輸出するようになりました。そのため、産地別に京薩摩、神戸薩摩、横浜薩摩などが生じ、鹿児島で作られたものが本薩摩と呼ばれるようになりました。ちなみに、布志名焼の黄釉の作品も薩摩焼として輸出されていた時期があったようです。

この小皿の裏には「陶弘山」と「隈元」の印があります。「陶弘山」は明治～大正の輸出薩摩を手掛け、錦手の茶碗や香炉など質の高い小品を作っていた名窯で、「隈元」は陶器商の名です。薩摩らしい柔らかい釉調と絢爛優美な菊花が色絵金襴で描かれた、華やかな作品です。

■受付横に展示しています。

■2月のロビー展

無 料

出雲玉作資料館友の会主催

湯町保育園・作品展

2月4日（火）～2月28日（金）

3歳児・4歳児・5歳児の作品を展示しています。子ども達のつぶやきが聞こえてきそうな可愛らしい作品です。是非、足を運んでいただきご覧下さい。（湯町保育園）



.....

■【休館日のお知らせ】

2/10(月)2/12(水)2/17(月)2/25(火)

2/11(祝・火)2/24(月)は開館します。

.....

■3月のロビー展は恩田明弘【写真展】です。